

令和2年度第3回帯広市有林野管理経営審議会（書面会議）における意見と対応（案）一覧

発言者	該当箇所	意見内容	意見に対する対応等
A委員	地拵えの作業仕様について	笹の根茎まで重機で剥ぎ取ることで1年目の下刈りをしなくて済むようにできる。	平野部においては、笹を剥ぎ取ることで他の草本類の繁茂を容易にするおそれがあり、山岳地においては表土の流出を招くおそれもあることから、慎重に対応したいと考えます。
	下刈りの作業仕様について	可能であれば、筋刈りにすればコスト削減になるのではないかと。	（今後の参考とさせていただきます。） 刈り残した部分はエゾヤチネズミの生息場所となり、カラマツや広葉樹の造林地の場合、食害の増大を招きやすいことから、エゾヤチネズミの食害が起こりにくいトドマツ等の造林地については筋刈りの採用も検討します。
	間伐時に林地に残る未利用部分の活用について	搬出しやすい場所では、一般材にならない部分はバイオマス燃料として利用してはどうか。	（今後の参考とさせていただきます。） 林内に残る枝条等は極力少なくしていきたいと考えています。搬出・運搬のコストなどの課題を解決できれば、有効利用を進めたいと考えます。
	伐採と地拵えについて	主伐事業と造林事業を一括発注の実施により経費の削減が可能。市有林でも検討の価値はあると思われる。	（今後の参考とさせていただきます。） 公共造林補助の活用を前提として、事務手続きや現場監理上の課題を整理し、将来的には取り組みを検討したいと考えます。
B委員	別添資料「帯広市有林位置図」	市有林を示す枠線がよくわからない。	枠線を太くして内側を塗りつぶしました。
C委員	（異議なし）	—	—
D委員	意見書	「場所ごとの状況に応じた施業手法」について、「地域ごとの特殊性や森林の状況に応じた施業手法」に修正してはどうか。	意見のとおり修正しました。
E委員	本文P.11 山岳地において伐採を計画する際の配慮事項イメージ（図）	配色の意味するところが分かりにくい。	意見を踏まえ修正しました。
	本文P.13・14 下刈りの施業方針	P.13の説明文とP.14実施基準の表で下刈りの実施期間が異なりわかりにくい。	説明文を実施基準に合わせて修正しました。
F委員	（異議なし）	—	—
G委員	（異議なし）	—	—
H委員	（異議なし）	—	—
I委員	（異議なし）	—	—
J委員	（異議なし）	—	—